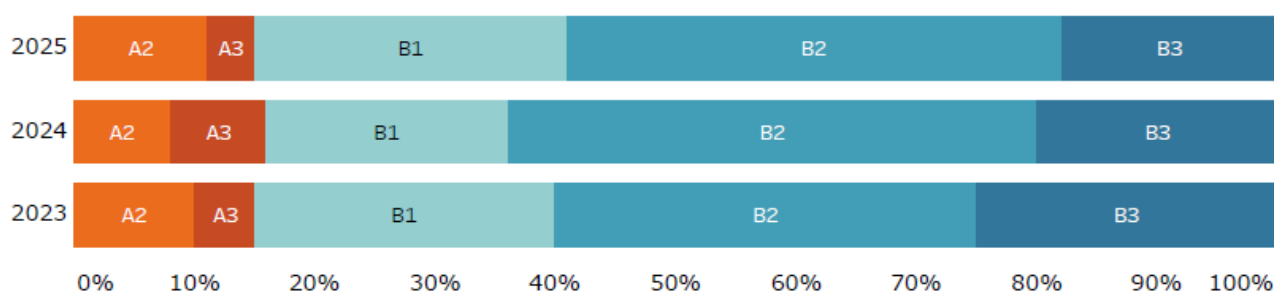


2025年 桜蔭 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。高度な論理的思考力が求められるB2、B3の問題が中心となります。2023年より、問題用紙が3枚となっていました。2025年も同じく3枚となりました。問題数の増加というよりは、情報量の増加という印象を受けます。問題文の情報量が多いため、条件や状況などを正確に読み取る必要があります。また、計算量の多さも例年通りでした。冒頭の計算問題だけでなく、大問中の途中式の計算が恐ろしく面倒なことがあります。1回の計算で正しい答えを求め切る力は欠かせません。また、場合分けして調べる問題も例年出題されています。正確に調べる力も必須となります。



大問1は、例年通り計算、一行題でした。2024年の計算問題は2問でしたが、2025年は1問でした。確実に得点したいです。(2)は、立体のひもの巻きつけ(最短距離)でした。多くの受験生が類題を経験していると思います。ここも確実に得点しておきたいです。(3)は、桜蔭でよく見られる約束記号の問題でした。一見、面倒そうですが、実は「倍数+あまり」の典型問題でした。①工は「4でわると3余る数」①才は「4でわると3余り、7でわると5余る数」②は「4でわっても7でわっても余りが同じになる数」と置き換えることができます。ここも得点しておきたいです。

大問A2は、ライトの点灯を題材にした場合の数に関する問題でした。問題文に「いろいろな記号を表すことにします」とあるので、デジタル時計の数字(0~9)ではない点に注意が必要です。(1)は、「どこか2つのライトが故障」とありますので、消えている4か所に注目して、つけようとしていたライトを2か所、1か所、0か所と場合分けして調べます。(2)①は7か所のライトについて、それぞれ3通りの操作があるため、 $3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 3 = 2187$ (種類)となることがわかります。ここまでは正解しておきたいです。(2)②も故障したライトに注目して調べますが、かなり手間がかかります。見送って他の問題に時間をかけたいところです。大問2Bは、見慣れない平面図形の問題でしたが、全体の中では取り組みやすいと言えます。焦らず問題文を読み取り、作図がキチンとできれば得点源となる問題でした。

大問3は、旅人算の問題でした。桜蔭をめざす最上位生にとっては、難度が非常に高い問題というわけではないのですが、とにかく計算の手間がかかります…。試験時間がここで大きく削られてしまって、大問4の条件を整理して調べる問題に到達できなかった受験生も多かったと思います。計算の手間を考慮すれば、逆に大問4を先に取り組むのも手と言えますが、判断が難しいところです。大問1、大問2A(1)、(2)①、大問2Bは確実に得点しておき、大問3でどれだけ時間を抑えて大問4に取り組めたかで差がついたと思います。